



寄居町消防団 団長 逸見和美さん

我々消防団員は、一刻の猶予も許されない危険な災害現場で活動しています。その活動を行うにあたり、日ごろの訓練や規律ある団体行動が必要不可欠です。しかし、そういった厳しさの中にも、研修旅行や親睦会を通じて団員同士の絆を深め、一丸となって活動する消防団を目指しています。皆さんも我々と一緒に、地域を守る消防団員として活躍しませんか。

募集しています!

寄居町消防団員

寄居町消防団では団長以下各役職者の任期を2年と定め、今年4月が改選期にあたります。18歳以上で町内に在住または在勤の、一定要件を満たす方であれば、誰でも入団できます。



なお、消防団員は非常勤の地方公務員となりますので、報酬(年額)や火災等に出勤した際の手当などが支給されます。その他、活動に必要な被服の貸与や、活動中に負傷した際の補償、退職報償金(一定期間以上勤務して退団した場合)の支給などが受けられます。

申し込み/総務課 (☎581・2121内線311) へ。

「消したかな」あなたを守る 合言葉

春の火災予防運動が3月1日から7日までの1週間行われます。これから春先にかけて空気が乾燥し、強い季節風が吹き荒れ、火災の発生しやすい季節になります。ちょっとした油断、不注意が火災を発生させます。

もう一度、家庭や職場等における火災予防の大切さを見直し「失火しない・放火されない」環境づくりに努めましょう。

また、山林や河川敷等でも大火災となる危険があります。火の取り扱いには十分注意しましょう。

平成22年災害件数

- (深谷市消防本部管内)
- 火災/59件 (前年比12件減)
- 救急/7,138件 (前年比730件増)
- 救助/125件 (前年比10件増)

問い合わせ/深谷市消防本部予防課(☎571・0913)へ。

消防団の主な活動

主な活動として、火災発生時の消火活動は言うまでもありませんが、その消火活動を行うための訓練(特別点検・出初式・放水訓練)や、火災を未然に防ぐための警戒・広報活動(夜間巡回・歳末特別警戒)も行っています。

また、地震・風水害などの大規模災害時の救助・救出活動や避難誘導・警戒・防除等も消防団の活動の一つとされています。



▲消防特別点検
消防団員の資質向上を目的に、町長が消防団員の服装規律や部隊行動、機械器具等の装備を点検するために実施しています。また、消防ポンプ自動車操法の訓練成果を発表する機会として、全分団が操法を行っています。



▼出初式
年頭にあたり、消防団員が一堂に会し部隊行動や一斉放水訓練を行い、防火・防災への決意を新たにすることを目的に実施しています。



問い合わせ/総務課 (☎581・2121内線311) へ。

消防団のルーツは、遠く江戸時代にさかのぼります。「町火消」と言われる

消防団のルーツ

で守る」という精神に基づき、昼夜を問わず町民の皆さんの生命・財産を守るために活動している団体です。現在、全国の消防団の数は約2、300団、団員数は約89万人で、消防本部や消防署に勤務する職員の約6倍にあたる人数が、地域の消防・防災のために、活動しています。寄居町でも団長を筆頭に、7分団154人(定員155人)の団員が活躍しています。以前は、農業や建設業など自営業者の割合が高かったのですが、現在では全国平均で7割を超える団員が被用者(サラリーマン)であり、寄居町でもその割合は5割を超えています。また、団員の平均年齢も以前に比べて上昇しており、全国平均で38・5歳、寄居町平均で35歳となっています。



消防団とは

消防団は、『消防組織法』に定められた町の消防機関で、それを支える消防団員は、普段は本業を持ちながらも、火災などの災害発生時には「自らの地域は自ら

組織で、普段はとび職などとして土木建築業に従事し、いったん火災が起これば即座に消防活動に従事しました。経費は町内自治会で決められて運営されており、まさに自治体消防の元祖と言えます。この制度をつくったのは、八代将軍徳川吉宗の命を受けた、かの有名な大岡越前守忠相だそうですが、江戸時代から現在まで脈々と流れ続ける「自らの地域は自らで守る」という精神が、現代の消防団にまで受け継がれているのです。

地域の皆でつよむに

町では消防に関する事務(消防団に関する事務以外)を深谷市消防本部に委託し、火災現場では消防本部と消防団が連携して消火活動を行います。しかし、消防本部と消防団だけでは、災害を完全に抑えることはできません。火災などの災害を最小限に食い止めるには、発見した際の迅速な通報や自宅・近隣地域の防火対策など地域の皆さんの協力がなくてはなりません。



第5分団が視察研修で、立川市にある東京消防庁第八消防方面本部の消防救助機動部隊(ハイパーレスキュー)を訪問しました。(久保消防庁長官およびハイパーレスキューの方々との撮影)